

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	デイサービスセンターすこやか		
○保護者評価実施期間	R6年 11月 1日		～ R6年 11月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	R6年 11月 1日		～ 年 月 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)
○訪問先施設評価実施期間	年 月 日		～ 年 月 日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)		(回答数)
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 1月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門的支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたち一人ひとりの個性や障害特性を見極めながら、発達に応じた活動プログラムを用意し、可能な限り個別のかかわりに努めている。 各職員が研修に参加し、その内容を全職員に周知したうえで、TEACCHプログラムの考えやPECSトレーニングなどを支援の取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員一人ひとりが質の高いサービスを提供できるよう、積極的により多くの研修に励み、他職員へ周知したうえで実際の支援に取り入れる。
2	保護者の対応力向上の支援	<ul style="list-style-type: none"> ライフサポートあおば利用の保護者を対象に、年2回グループ(1グループ5名程度)、ペアレント・トレーニングを開催し、保護者の対応力向上を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ライフサポートあおば利用の保護者だけでなく、地域住民も対象として施設機能を還元する。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の行事に地域住民を招待する機会がなく、地域住民との交流が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所が住宅地にあるが、住民との交流が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の広報誌を配り、挨拶をする。 ゴミ拾いや落ち葉拾いなど、積極的に地域運動に努める。
2			
3			

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果（公表）

公表：令和7年3月31日

事業所名 デイサービスセンターすこやか

保護者等数（児童数）23

回収数 19

割合 82 %

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	73%	16%	0%	11%	・人数の割にはスペースが狭いと感	・法律上は規定を満たしている ・エリアを構造化（わかりやすく）している。特性に合わせた対応を検討する。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	95%	5%	0%	0%		・送迎対応時間など、手薄になってしまうこともある。日々雇用職員の採用などを検討する。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	68%	0%	5%	26%		・現在利用児童している児童への対応として、物理的構造化に努める。
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	100%	0%	0%	0%		・アセスメント力を強化し、より良い計画作成に努める。
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	89%	11%	0%	0%		・支援プログラムについて説明をさせていただく。
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	16%	13%	26%	45%	・なくても良いと思う。	・利用する児童のニーズを確認の上、個別に検討する。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	100%	0%	0%	0%		
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	100%	0%	0%	0%	・連絡帳・送迎時にしっかりお話してくれるので安心です。 ・支援の様子を写真にしているので把握が出来る、成長の具合を知る事が出来る。	・児童の活動の様子を写真や動画を活用している。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	100%	0%	0%	0%		・6か月以内の面談の他、相談等の申し入れに対応する。
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	84%	11%	0%	5%		・保護者懇談会を企画する。（年2回以上）
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	89%	0%	0%	11%		・6か月以内に面談をしているほか、相談の申し入れは日程調整をして実施している。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	100%	0%	0%	0%		
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	100%	0%	0%	0%		
14 個人情報に十分注意しているか	100%	0%	0%	0%		・児童の写真を掲載する際は、個人情報承諾書の確認と、都度確認している。	
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	84%	11%	0%	5%		・年度当初の説明及び、面談機会にも説明する。
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	84%	0%	0%	16%		
満足 度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	89%	11%	0%	0%	・家でも職員さんの名前を言っています。 ・スケジュールや指示が分かりやすい様で毎回ルンルンで行っています。	・面談等を通して、子どもの様子を聞き取りし、支援や活動・余暇に取り入れる。
	18 事業所の支援に満足しているか	100%	0%	0%	0%	・出来るところが増えてきています。 ・先を見据えた取り組みや支援内容で大満足しています。	・支援の効果については、本人や保護者と共有する事を継続する。

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことで。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成します。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことで。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表： 令和7年3月31日

事業所名 デイサービスセンターすこやか

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	0%	・エリアが狭いが、スケジュールで活動場所の調整をしている	・個別化での支援をしている。今後エリアの配置等を検討する。
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	0%	・支援スペースすべてのエリアに配置できる職員数を確保している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	86%	0%	14%	・児童玄関にスロープを設置している。	・支援スペース内の段差にもスロープ等を設置するか検討する。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	100%	0%	0%	・毎日の目標を児発管と相談している。	・朝会やカンファレンスの時に職員間でも情報共有していく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	0%	・満足度調査と福祉サービスの質の評価の結果を基に計画に反映させている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	0%	・広報誌やホームページ等で自己評価の結果を公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100%	0%	0%	・財務について、税理士の指導を受けている。	
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	0%	・職場内監修・外部研修に参加している。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%	・アセスメントに基づいた支援をしている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	0%	・指示理解のアセスメント、社会性・課題分析。特性シートを活用している	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	0%	・支援会議で話し合いをしている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	0%	・毎日上司を相談し目標を立てている	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	0%	・個別支援計画に沿って、平日、休日、長期休暇（イベント含む）に応じて課題を設定している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%	・少人数での活動は実施している。	・他児童との活動を目標にしている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	0%	・朝のミーティングで確認している。	・必要に応じて、業務終了後にも確認する。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	0%	・送迎終了後は時間も遅いため、次営業日の朝に確認している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	0%	・支援に関して、日々ケース記録に記載し、その結果を改善につなげている。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	0%	・支援会議で話し合っている。		
関係機関や保護者との連携	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100%	0%	0%	・「日常生活の充実と自立支援のための活動」や「多様な遊びや体験活動」など複数組み合わせている	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	0%	・児発管が参加している。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	100%	0%	0%	・学校迎えの際に下校時刻より早めに到着し、学校教諭と引継ぎ等の情報共有している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	14%	0%	86%	（受け入れできていない。）	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	86%	0%	14%	・同法人の児童発達支援センターと情報共有している。	

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者 との連携	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%	0%	(学校を卒業するケースがない。)	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	0%	・青森市発達支援事業所連絡会を通して助言や研修を受けている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	0%	100%	・長期休暇等に公園に出かけ、障害のない子どもと触れ合う機会を設けている。	・放課後児童クラブとの連携を検討する。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	100%	0%	0%	・令和6年11月より、管理者が青森市障がい者自立支援協議会に参画している(障がい児部会長)。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	0%	・送迎時やメール・電話でしている。モニタリング月に面談している。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	100%	0%	0%	・ペアトレを実施している。	
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	0%	・運営規程、支援の内容、利用者負担等の説明を契約時に行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	0%	・送迎時や面談で行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%	0%	・年2回、保護者懇談会を開催している。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	0%	・苦情解決マニュアル及び苦情解決委員会を設け、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	0%	・あおばだよりの作成・発行をしている。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	0%	・送迎車に児童の名前が記載しているボードに配慮する。	・利用者個人情報保護マニュアル等に沿って対応を徹底する。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	0%	・保護者との連絡にLINEを活用している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	86%	0%	14%	・ゴミ及び落ち葉拾いなどの際に地域住民への挨拶など交流を図っている。	・地域住民を招待する等の行事を検討する。
非常時 等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	0%	・職員に周知されている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	0%	・毎月訓練を行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	0%	・内部及び外部研修に参加する機会を確保している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	0%	・身体拘束に関するガイドライン及び身体拘束防止委員会を設置し、保護者に説明したうえで個別支援計画に記載している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	86%	0%	14%	・保護者から聞き取り・確認している。	・保護者経由で主治医からの指示書の提出をお願いする。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	0%	・インシデント・アクシデントレポートをその都度作成し、全職員に周知している。	